

会 員 各 位

公益社団法人群馬県歯科医師会
会 長 村 山 利 之
学術担当理事 高 井 貞 浩
(公印刷込)



令和6年度群馬県歯科医師会学術講演会のご案内
『For the future～歯科医療の未来』

寒冷の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素は本会の事業運営につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、日々の診療の中で「コンポジットレジン修復」は、全く行わない日はほとんどないと言えるほど高頻度であり、その低侵襲性も周知のことと思います。その一方で、より満足度が高く、長期にわたり予後良好な治療を行うには、最新の材料を知り、単に行うだけではなく術者の技術を向上させる必要があります。

そこで今回、この分野におけるエキスパートである保坂先生・菅原先生に、コンポジットレジン修復の最前線についてご講演いただきます。本講演によって示される基本的な手法からより高度な応用は、先生方の日常臨床のスキルアップにも必ずお役立ていただけたと考えております。つきましては、多数の皆様方のご参加をお待ち申し上げます。

※本研修会は、日本歯科医師会生涯研修単位を取得することができます。

※日本歯科衛生士会研修取得単位は、申請中です。

記

日 時 : 令和7年3月2日(日) 午前10時00分～13時00分

場 所 : 群馬県歯科医師会館 4階第2会議室

講演演題①: 『コンポジットレジン修復の到達点と今後の発展』

講 師①: 月潟歯科クリニック、国立大学法人徳島大学歯学部臨床教授 菅原 佳広 先生

講演演題②: 『次世代ダイレクトコンポジットレジン修復の最前線』

講 師②: 国立大学法人徳島大学大学院医歯薬学研究部再生歯科治療学分野教授

国立大学法人徳島大学ポストLEDフォトンクス研究所医光融合研究部門教授

保坂 啓一 先生

【申込フォーム】 ※締め切りは2月21日(金)、17時まで

URL: <https://forms.gle/P37TqYG7twfHBcVX8>

QRコード:



令和6年度群馬県歯科医師会学術講演会

【講演演題①】

「コンポジットレジン修復の到達点と今後の発展」

【講演要旨①】

歯科臨床におけるコンポジットレジン修復は健全歯質の削除量が少ない低侵襲な治療法で Minimal intervention の概念に最も沿ったものといえます。近年では天然歯の色調を忠実に再現でき、審美修復のひとつともとらえることができます。しかし、いまだに金属やセラミックスと比較して機械的強度が低く長期耐久性に不安をかかえていたり、直接法のハードルが高いと考えていたりすることも多いと思います。

今回は、現在の主流となっている材料や修復法について長期予後を振り返り、臨床における耐久性について考察していきたいと思います。その上で、保険診療で使えるユニバーサルシェードのフロアブルレジンによる前歯部4級修復について解説させていただきます。そして、デジタル技術と融合した新しいコンポジットレジン修復の症例を通して今後のコンポジットレジン修復の大きな発展と可能性についてご紹介したいと思います。

【講演演題②】

「次世代ダイレクトコンポジットレジン修復の最前線」

【講演要旨②】

直接法のコンポジットレジン（CR）修復は保存修復治療の主要な選択肢として広く用いられており、その審美性と機能が評価されています。一方で、治療の複雑さや術者の技術力が治療結果に与える影響から、特に高度な症例では間接法が選ばれることも多いのが現状です。しかし、近年の接着技術やデジタル技術の進展により、直接法修復の限界が大きく変わりつつあります。

本講演では、これらの技術革新を活用し、患者中心の治療を目指した新たなアプローチについて解説します。具体的には、クリアインデックステクニックや低粘性レジンによる浸透技術、さらにはホワイトニングを組み合わせた治療プロトコルについて取り上げます。これらの技術を融合することで、低侵襲で高い審美性と機能性を実現する治療の可能性について議論します。また、患者の満足度向上や治療の長期耐久性を確保するための具体的な方法についても触れます。

本講演を通じて、参加者の皆様に次世代のCR修復の最前線をご紹介し、日々の臨床に取り入れるための実践的なヒントを提供できればと考えています。多くの皆様と新たな知見を共有し、保存修復治療の未来を共に考える機会となることを期待しております。